

第2回久美浜学園学校運営協議会

協議会長開会挨拶

- ・皆さんこんばんは。猛暑、酷暑続きの夏で、本当に秋は来るのだろうかという感じでしたが、やっと秋らしくなってきました。
- ・今年度第2回目の学校運営協議会にご出席いただき、ご苦労様です。
- ・コロナ騒動も収まり、地域の運動会、敬老会、秋祭りなども行われ、日常生活や社会の動きも以前の日常が戻ってきています。しかし、人同士の関わりや繋がり方がどことなく淡泊になったり、まだまだ行事ごとの戻り方も規模が縮小されたり、どことなく鈍いようにも感じます。これを機に復活させることやできそうなことでも、戻すことに後ろ向きになる雰囲気や定着しては欲しくないものです。しかし、事情は様々でしょうが、裏を返せばマンネリ的で無駄なものは見直され、精選されたという捉え方ができると思います。
- ・こんな中、学園の教育活動は、園所、小中で、制限もなく、新しいスタイルを取り入れながら全開に広がり、交流活動や職場体験学習を始めとした体験学習や、地域ボランティア活動など活発に活動していただいている様子が、過日いただきました一貫教育だよりに満載の活動の写真や、本日の資料からも様子が伝わってきます。
- ・京丹後市には教育振興計画という5年から10年先の未来を予想し、「目指す人材像」を設定して、実現するためにどんな教育を準備するかという計画書ですが、令和2年度に改定された現在のものが今年度で終わり、来年、令和7年度から新たな振興計画書で実践されます。今、その策定に向けた協議が動き出していると聞いています。
- ・一貫教育は本運営協議会が直接的に関係するものですが、この10年間の一貫教育がどう評価され、新たな次の5年から10年間の一貫教育がどう設計されるかも注目されるところです。
- ・この間、コロナ禍を挟んで一気にICTを使っの授業が進み、授業スタイルが大きく変わっているようです。市の広報の11月号に京丹後市の小6と中3の児童生徒のパソコン、タブレットなどICT機器を使っの授業をどれくらいやっているかを調査する結果が出ていました。全国と京都府の結果と比べて使っている割合が京丹後市は多く、活用が進んでいるようです。しかも、その中でも久美浜学園の活用率が最も高いと聞いています。あとは、パソコン、タブレット等のICTを使った授業によって、自主的、意欲的に学ぶことや課題解決的、探究的にも学ぼうとするトータルな学力を身につけてくれることを願っています。
- ・本日は2回目の会議になりますが、事務局からの報告や提案を聞いて、情報共有していただき、後半のグループ別交流では、今回は、小学校区別グループのメンバーで校区別の状況や課題等、さらには本運営協議会の活動や応援団としてのあり方などについて意見を交流していただき、今後に活かしたいと思います。
- ・それでは、本日の会議で、意見交流を通して一層応援団としての役割や機能が更に高まることを期待しまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

学園代表校長開会挨拶

- ・本日は久美浜学園学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。
- ・本年度は非常に暑い夏でした。園所小中学校ともに、園庭で遊ぶこと、プールをするのかしないのか、部活動をするのが良いのか悪いのか、それぞれ工夫をしながら、それでも保育、教育活動を止めないということを行ってきて、この夏を終えています。
- ・2学期に入り、工夫も続けながら、園所では運動会を、中学校では体育祭を、無事させていただきました。3小学校では、1泊旅行の修学旅行を無事行かせてもらっています。
- ・とはいえ、地域で子どもたちをお世話になっていますが、この後、事務局から具体的に説明があると思いますが、体験活動や講話学習などで地域の方々に力をお借りしながら、久美浜町の子どもを育ててもらっています。市が進めているこのコミュニティスクール、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的展開ということで、地域の皆さんにはお世話になっていきます。久美浜の子を久美浜でどんなふうに育てていくのが良いのかということで、お知恵をお借りしお力添えをお願いできればと思っています。

第1グループ協議（久美浜小）

○久美浜保育所の様子、取組

ほんとに暑い夏だった。大人より背の低い子どもたちは地面からの熱で大人の倍の暑さを感じるということで、暑さ対策には頭を悩ませた。暑さ指数33で外に出られなくなるということでプールが中止になることも多くあった。暑い中でも子どもたちは元気で、休むことなく活動していた。

感染症も手足口病がすごくて大人も感染した。ただ、全体的に広がって休園になるほどではなかった。

運動会は0～1歳は参加せず2歳から行ったが、夏以降も残暑が厳しく戸外での活動も制限された。保護者会に寒冷紗の設置をお世話になった。園庭の草除草がいつも大変だが、暑さで草ののびが少なかったのはよかった。来月、祖父母参観をする。

特色としては、10月に久美浜一区の秋祭りを見て、子どもたちの保育の活動に取り入れた。発表会では、子どもたちがやってみたいことを取り入れながらやっていく。

○久美浜小の様子と、取組

久美浜小の取組については、学園の上半期評価のスライドの中にたくさん出てきたので割愛。明後日が学習発表会で、台風が大変気になっている。それとれないかなと思っている。何かあったらいつもPTA会長に相談させてもらっている。いつも頼もしく思っている。

○各委員からの意見

- ・暑い夏で、子どもたちの活動が制限されたということだが、通学の時はどうだったかなと気になっている。我が家の孫は、涼しい顔で出て行って涼しい顔で帰ってくる。スクールバスが慣れっこになっている。我々の子どもの時は、暑くて暑くて、その辺の水をがぶがぶ飲みながら帰ってきた。涼しい教室から、ちょっと熱いバスまでの道を歩いて、バスに入ったら涼しく、帰ってバスを降りたらすぐ家、汗一つかかないで帰ってくる。実際に歩いている子はどのような状況だったかと思っている。いつも地域の方から聞いていたのは、夏の間はぜひスクールバスに乗せてやってほしいということだった。バスの子とそうでない子との差が大きい。その辺のことを聞かせてほしい。

- ・二区の子は、行きは徒歩で帰りはバスに乗せていただいた。始まったのは7月10日で、9月いっぱい続いた。それはよかった。熊が出没した。神谷、河梨の子は、行きはバス、帰りは親がむかえに來たり、見守り隊に付き添ってもらったりした。熊の問題はこれからもっともっと出てくる。何が一番安全かと考えたとき、バスになっていくと思っている。河梨、神谷の子、行きは子ども料金を払って学校に行く。無償で乗れるシャトルバスを将来的に作ってもらえたらみんな助かる。獣害の対応に力を入れてもらえるとうい。行きの時間、帰りの時間に出たりする。出たられでも対応できない。大人でも無理。被害が出てからでは遅い。乗るたびにお金を払っていた（小さい子は40円）ので、無償化にしてほしい。教育委員会にも言ったが、大宮でも峰山の街中でも出ているので、ここを認めたらどえらいバス補償になっていくのでそこは一線を引かざるを得ないということ。

- ・下校の時、お茶を飲んでいないと言うものだから、私が水筒を持って行って何人かに配って、そこで一息いれてから帰るというようにしたことがあった。こんな暑い夏は初めてだったので、独断でこっそりした。

通学路の見直しがあり、ボランティアの方が増え新しい喜びもあった。状況に応じてやっていこうと話し合っている。

- ・近所のお子さんが集まってくるとあいさつをしてくれるので気持ちがいい。

- ・小学校でも、前の横断歩道でわたった後深々と頭を下げている子も何人かいる。

- ・市民局の前でも見かける。6年生の子がみんな渡ってからお辞儀をしている。みんながそうするのでよいことだと思っている。

- ・暑い夏ではあったが、限られた子ではあるが公園で遊んでいる。外で遊ぶ子が少ないのは、遊べる時間が少ない、遊べる場所が少ない、気象状況とかクマのこととかがある。それを踏まえながら、地域の方たちは、子どもたちが参画する地域行事の在り方を考えておられる。

- ・子ども広場も、今年は暑さでいろいろ考えて、外でやることを室内でやったりした。

甲坂に龍谷大学生が来て、川の掃除などいろいろな作業をしている。3年ほど前から、子ども広場に来てもらっている。最初は人数が少なかったが、今年は多く、7/20の日に実施した。甲坂の広場で遊ぶ予定をしていたが、暑さで婦人センターの2階で子どもたちと遊んでもらった。

- ・クマの話だが、うちは3人子どもがいて（20代ですが）家に帰ってきたときに、その話をすると、第一声が、「今の子はええなあ。バスで行っているみたいで。私らあの時は、何回かクマを見たで。過保護と違う」ということだった。そういう考えもあるか、そういわれてみれば、おじいさんやおばあさんが襲われたというニュースもあった。自分たちもサルとかシカとか見る。不謹慎だと思うが、全部を大人がしてしまうのもどうかなとも思う。昔も祖母とかがついて行っていて安心して小学校に通っていた。見守り隊の方も大変だと思う。そういういろいろな助け合いで大きくしてもらっているというの、子どもらはまじまじ見ているし、子どもに見せてあげる、感じさせてやることも大切なのではないかな。

- ・先ほど、保育所長からもあったが、熱中症警戒指数が35を越えたら避難場所を開設する。幸い越えることはなかったが、5月～10月の期間で開設する。

- ・個人的な意見だが、熊の件では、安全という面では様々な対策が重要だが、逆に言うと、子どもが安全を考える機会を奪っていないかなとも思う。暑いなら暑いで、何か考えられないか。暑いから涼しいところに、暑いからスクールバスに、ではなくて、それはそれで必要だが、暑さを除いてやるだけでは、暑い時にどうしたらよいか考えに至らないと最近思っている。

- ・あと一つ、地域学習を学校の授業としてやる必要があるのか。地域のことは地域がやる。それを授業の時間に学習としてやるのか。地域の人と子どもたちの時間がないということもあるが、地域で考えることではないのか、ということをお話してほしい。

・夏に久美浜学園で研修会をされた。3つある園所に各小中学校の先生が参観し、どう子どもを育てておられるか見て、その後、園所の先生と小中学校の先生で話し合い、久美浜学園での保育、教育を考えるということをしていただいた。一緒に参観して、子どもをどう育てるかということで見ている。緻密な計画を立てられ、子どもたちが考えられるようにという仕掛けをいろいろとされていた。この年頃から、そうやって工夫をするとか、友だちとの関係を作るとか、どのような声かけをして自分がしたい遊びや取組をするとかを、小中学校の先生が見られていた。これは、小学校でも中学校でも活きるところだと学んでおられたということが、非常に印象的だった。そのことは、中学校での目指すところをそれぞれの段階で描きながら保育、教育されているということだと思った。

○学校で地域学習が必要かに関して

結論から言うと、両方必要。地域の人たちの活動から教えてもらう場合と、学校の専門性を持った教員が教育の視点から教科と絡めながら教えるというところが違う。教科を通して地域を知る、地域の大人から地域を知る、質が違う。両方から学んで、自分が咀嚼して、経験を通して自分の力として蓄えていくということになる。1回やったからどうということではない。長い時間をかけて地域から教えてもらったことを学校の中で、地域とは何ぞやと教えてもらって、自分が経験を積んでやがてそれが統一されていって力になっていくのではないかと、おおざっぱな言い方だが両方必要だと言える。学校の中では、学びが連続しているので、その連続の中で地域が入ってくる場合と、地域から教えてもらう場合には連続性のない単発的なものが出てくるのでそこが違うかなと思う。（あくまで経験的なこととしてだが）

○スクールバス通学に関して

スクールバスは確実に体力低下、我慢強さの欠如につながる。歩く方がいい。命が先行するので、最悪を考えると、こういう手立てしか出てこない。もし何かあったらどうする、守りましょうとなる。歩くということは、7時間目8時間目をしながら、勝手に帰るということになる。こちらでも大きなあと思う。

○子どもの体について

汗をかかない子、部活の大会とかでも小学生レベルはまだ汗をかく。中学生を見ていると汗をかかない。バレーの試合で、床でこけても床がぬれない。ボールがぬれて、ボール交換をすることは普通はあるが、全く交換してくれと言ってこない。「ほんとに君たちは汗をかくのか」と聞くと「かいている」というけど、汗が流れている子を見たことがない。どこでどう汗をかかない体になっちゃっているのか。

教室もエアコンの時代、昔はノートをとっていたら、ノートにポトポト落ちてきてぬれたが、そういう意味では汗をかかない。家でもエアコン、学校でもエアコン、仕方がないと思うが、汗をかかないと思う。意識的に汗をかかないといけないとも思うが、今は、暑さのレベルが昔と違うこともたしか。

○運営協議会の進め方について

ここで出た意見がどう反映されているのか。→出された意見は、ほぼたよりに書き公表している。学校、園で活かすべき意見は、取組に反映している。協議会で話されるので各団体の活動がよく分かる。去年は、協議会の様子をDVDにして他の教員に見てもらっている。

第2グループ協議（高龍小）

○高龍小学校の様子、取組（地域に出かけて行ったような活動3点）

①府立大との共同学習で古墳の発掘に係る学習を、2年前から須田区と共に進めている。目的は、子どもたちが地域の魅力を知ること、古墳を通して地域おこし、学習を通して大学生とふれる機会とすること。今年度は、タブレットを使いオンラインでつながり、春から2回授業をしている。9月は発掘体験ということで大学生が来て5年生と授業をした。学習発表会もオンラインで5年生の発表を見てもらい感想を聞いた。身近に大学生とふれる機会になった。

②コウノトリの秘密を探る。丸山の人口巣塔で増やす取組を、子どものおじいちゃんとジョイックのおばあちゃんが進めておられる話を4年生が聞いた。子どもたちから出てきた夢として、学校に巣塔を作りたいということが出て、市と連携してできないかと探っているが、かなりの経費がかかるのですぐにはできない。コウノトリのいる風景はとっても素敵なことなんだと自分たちの声で発信すること、全地域に広報を出したり、看板を作ったりすることを計画している。子どもの学びが地域に発信される。コウノトリの住める環境を考え、地域の自然に目を向けている。

③3年が社会の学習で、校区の商店に行っている。コロナの時から比べ、行きやすくなった。

○こうりゅう虹こども園の様子、取組

佐濃自治会のヤマメの放流に2年続けて行かせてもらった。奥山の山の中の川を知らない子がいるのでよい体験になった。あとから家の人とヤマメを見に行ったという子もいた。シニアの同窓会（地区敬老会）に出演させてもらった。2年続けて行っている。大勢の人前で演技して、喜んでもらえて、子どもたちにも自信になった。ディサービスも2か所行かせてもらった。

田んぼをお借りして米作りをしている。田植え前には、田んぼで遊ぶよい体験をさせてもらっている。泥んこ遊びは、初めは気持ち悪いと入りにくい子も、経験をする中で楽しんでするようになった。ザリガニなどの生き物もって持って帰った。田植えや稲刈りもさせてもらったが、今年は雑草が多く、自然の厳しさを感じさせられた。

地域の文化祭には作品を出して見てもらう。園の壁に絵を描く企画をしている。SDGsマンを作り運動会后、道路わきに掲示し交通安全などを訴えている。地域の中の園として地域にアピールしていきたい。

○各委員からの意見

・コロナで4年間、土曜お楽しみ会が活動できなかった。平成16年からやっていた、以前は海部小が文科省から指定されて、子どもたちの居場所づくりでやっていた。再配置の後は、学校全体で進めている。4年間やっていなかったら新しい子どもたちになった。低学年が多く、だんだん下の子どもたちが参加できるようになっている。

学校とPTAとで年間スケジュールを組んでやっている。ボーリング大会をした。今度は食生活改善協議会の方と一緒に年2回料理教室をする。12月には餅つき大会。8月にはお泊り会をしたが、来年度からは農業センターでの泊りはできなくなる。

学校で2週間前にチラシを配る。実施後にたよりを作って、参加した人だけが楽しんだというのではなく、参加しなかった人も楽しめるようにしたい。

次に世話をしてもらう人を作るために、今から自分と一緒にやってくれる人を探し始めた。

PTAが母体で、学校との連携を密にできることがよさとなっている。

事業は有線で紹介してもらい、近年は他地域にも行きホテル観賞をした。警察から熊情報をもらいながら協力してもらっている。夏休み前に自転車教室をやった。海部の駐在さんにも案内を持って行って、見守ってもらっている。

参加が多いから、少ないからということではなく、そこに来た人がどれだけ楽しかったか、思い出が残るようにしたい。

ずっと前に会員だった人が、お泊り会に来て、料理の段取りとかをすべてやってもらった。餅つき大会にも来てもらう。一番の目的は、思い出を作りたい。

・学校は、1年1年が勝負で、この1年で何ができるかを見ていく。今来ている子たちの下の兄弟を含めて、長いスパンで子どもたちを見て育てていこうということは地域だからできること。

・地域では、なかなか、どういう形で子どもが参加できるか考えることが難しい。湊地区では、いろいろとやっておられるようだ。以前は、子どもを集めて夏祭りをやっていたが、最近は暑すぎて、秋に変えて運動会など子どもたちも参加できる、そういった行事を考えていかなんかなあと思っている。

・地区にも子どもが少なく水曜日とかは家に帰ってくると、学校であそこへ行くとかか決めているようで、永留とかいろいろなところへ集まっているようだ。日が暮れるのが早く、自転車ですごいスピードで帰ってくるので事故が心配。

・ICTでタブレットを持って帰ってくるが、ゲームをしたりするので、どうなんかなあと思っている。部屋でやっているの、何をしているか分からない。もうちょっと使い方を話せたらよいが…。ゲームとか慣れていかなんと思うがちちょっとやり過ぎると心配になる。→学校では、何をしているか履歴が残るので知ることができる。使う頻度を増やすため、家庭学習で利用することは増えている。ルールを考えていく。ルールが守れないと使わせないというのではなく、使いながらルールを守らせるということにしていきたい。

・タブレット、SNSについて、今度、PTA保護者会で講演があるが、京丹後市に押しかけられた事例や何百万も課金する事例があるそうだ。危ないことも多くある。また、集中するあまり、周りとのコミュニケーションがとれないというのもまずい。

・土曜お楽しみ教室で、思い出づくりに取り組まれているのはすばらしいこと。積極的に参加している子も増えている。この時こうしてよかったわあと思い出に残り子どもの成長につながったらよいと思う。

・今年度は、PTAとして思いやりのある子どもの育成について、みんなと意見交流しながら頑張っている。主体性であったり、授業の中での発表もあったりするだろうが、主体性とか、学校から帰って一人で遊ぶのではなく、周りとのコミュニケーションとか、グループで何かやってみるとかあるとなおよいと思う。授業外での知識、地域の方との交流があるという風景は、学校の報告からも見えてくるので、みんな頑張っていて成長しているということでありありがたい。

・公民館では、来月17日にノルディックウォーキングをする。毎年だいたい30人ぐらい参加する。演劇鑑賞を10/20にした。豊岡の芸術大学の学生が川上小体育館でやった。川上地区だけでなく他の地域の公民館も援助してもらって、大人だけでも100人、小中学生も参加した。内容はちょっと難しかったという声もあったが、準プロの演劇を鑑賞ができてよかった。来年度もやりたい。2年前は保津川下り、もっと前は福井県の恐竜博物館にも行った。夏祭りも、今年で12回目、地元のバンドも出て、毎年200人ぐらい集まりありがたいなあと思っている。

コミュニティの関係で、来年からは公民館も地域振興会の一つになる。川上は行事も多く残していくことになる。この町連絡協議会も今年で終わり。

・あいさつ運動も、民生児童委員の活動も兼ねてやったが、園のバスに乗る人も少ないのかと思った。→送りの子が増えて、バス利用が減っている傾向がみられる。下の兄弟がいると「下の子を送るのでバスは利用しません」と言われる方もいる。多くても10人と少し。朝だけとか帰りだけという子もある。

・あいさつ運動もすぐ協力してもらっていてありがたい。

・民生児童委員として、佐濃地区では、地元、学校、永留国道交差点で、月2回あいさつ運動をしている。地元では、バスの停留所でやっている。小学校と中学校が同じ時間帯となっている。

・コウノトリの巣塔の監視をしている。卵からヒナを覗いている。足輪つけも小学校が参観した。餌をやっているところも見えるので、こども園でも来てもらえたら案内し説明できる。

・登下校の見守りをしている。見通しの悪い交差点があり、駐在さんが立っていても一旦停止してくれないことがあった。カーブミラーはふいてきれいになっている。みんなが一旦停止してくれるように働きかけたい。4差路でカーブしていて、何回か事故もあり危険なところもある。

第3グループ協議（かぶと山小）

〇かぶと山小学校の様子、取組

全体的に落ち着いている。学校に来づらい子、別室登校の子もいる。不安感が強い。学校が安心できる場所となるよう取り組んでいる。学習発表会には取り組もうとしている。

授業づくりでは、タブレットを使っている学習が進んでいる。以前は一斉授業の形式が多かったが、今は、グループや自分たちで学習を進める授業スタイルが多く昔とはずいぶん変わってきている。

いろいろな学年の子とつながりを強めることを大切にして児童会が取組を作っている。お弁当給食では、みんなが楽しめるアイデアを出して取り組んだ。全校かくれんぼなどもした。子どもたちのつながりづくりが進んでいる。

〇各委員の意見

・学校から離れて30年、我が子が卒業してから15年、子どもの様子が分からないおっさんやおばさんが、チャレンジ教室をやっている。子どもとどう接していいかわからないままやっている。昔と子どもたちの様子が違うなあと思っている。こんな言い方でいいのかなあとか、昔の大人から聞いてきたことでやっているの不安になりながらやっている。子どもたちのことを教えてもらいたいと思う。学校では子どもたちが落ち着いているということなので学校ではこんなふうにいるということを見せてほしいと思っている。

⇒ルールが守れないこともあったりするもので、なんでこのルールがあるのか、なんでしたのかなど、自分が行ったことを振り返らせるような伝え方や話し方をしている。これからどんなことに気をつけるのか、自分が判断し行動できるように問いかけている。

・神野の一つの集落で、夏休みに子どもを集めて宿題を見てもらおう機会を作っている。たまたま先生のOBがいて5人ほどでやっている。地域がちょっと動いたというのは、子どもたちが宿題をするのにタブレットを持っていて、公民館でWi-Fiが繋がらなくてタブレットが使えなかった。そういう状況が昨年あって、今年はWi-Fiをつなげようと地域の中で予算化されるという取組になった。

・かぶと山小は、再配置されて12～13年、再配置の仕事をさせてもらっていたが、田村、湊、神野の子が一つになれるのかという大きな課題があった。そのあたりの状況を聞かせてほしい。

⇒小さい子は地区に帰ってくるとそのまわりで遊ぶが、高学年になると自転車でかなりいろいろなところへ移動して遊んでいると思う。校内では、地区でかたまることはなく、だれかれ関係なく遊んだり取組をしたりしている。お客さんが来たりしても、再配置をしているという感じはないと思ってもらえると思う。いろいろな学校に行くと海の気質とか山の気質があるという気がするが、あまりそんなことも感じない。仲が良いように思う。かぶと山小へ来て4年目で、この子はこの地域の子と分かっているが、最初に来た時には、まったくわからない。同じつながりを感じている。

⇒Wi-Fi環境について、夏からタブレットを持ちかえて宿題をするということになった。2地区から公民館にWi-Fiがないということがあった。1地区からはお寺を借りたということだった。地区で環境を整えてもらうことはありがたい。タブレットは必須の道具になっている。

・湊では、若いパパとママも参加して子どものお祭りをしていて、10月に秋の部があった。今まで湊の校区の子だけに声かけをしていたが、今回は他地区の子もよんで（他地区の子は少しお金をもらったが）200人ぐらい集まった。人数を集めすぎたかなというほどパンパンになった。誰が田村の子、神野の子ということもなく、ほんとにみんな仲良くいいなあと思った。何回か湊地区で勉強会とか集まる機会があったが、「遊びに来たからついてきたわ」と、田村の子が混ざっていたとか、そういうこともあったので、すごく仲良くやっているんだなあと思った。

・朝の見守りでずっと子どもたちと歩いていて、月曜日はとっても静かだが、水曜日ぐらいからちょっとずつ元気になる。昨日はバス停までしゃべりたおしていた。「今日、お弁当給食でお弁当箱を持って行く」と朝から言っていて、何を言っているんだとわからなくて、「お弁当箱の中身は学校でつめて好きなところで食べる」と朝から言っていた。おもしろい取組を学校もやっているんだなあと思った。そんな話で朝から盛り上がっていた。楽しい取組だったんだなあと思った。

・湊地区はすごく子どもが少ないので、湊宮は、1年生が転勤してきた駐在さんのところが1人だった。その子が来なかったら、今年の入学児童は0人だったかもわからない。それだけ子どもの数が減っているが、外で遊んでいる子はたくさんいるので、にぎやか。この前の日曜日は、お祭りで、子ども対象で中学生が来たりして、とても子どもたちが活躍していた。

⇒お弁当給食は、第2弾をやりたい。プラスミニ運動会的なものもなんとか実現できるようにやっていきたい。給食の後の昼休みとかで、子どもたちが主体的、意欲的にやってくれたらよいと思っている。

・地域公民館は、7年度から新しいコミュニティに移行し、地域の公民館となる。一区、二区、佐濃は先行して実践している。残りの地域も新しいコミュニティに移行する。公民館連絡協議会は6年度で終了する。先行地域はいろいろな取組をされている。

・タブレットを使った授業で不安なのが基礎基本の習得にある。繰り返しやらないとできないことがあるのではないか。格差が広がっていかないか。自分でやれる子はどんどん行くし、そうでない子が不安になる。自分で進めない子が不安。それよりも個性が発揮できるような教育支援をしていくことに大きな課題がある。個に応じた指導をどう進めるか。

・3地域は驚くほどよそから行事にやってきてくれている。送り迎えが少し心配。田村地区の運動会も中学生がボランティアで手伝ってくれた。清掃活動なども。子どもたちが地域の一員として頑張ってくれている。学校での取組が地域にも還元されている。

・不登校の子も、少しずつ頑張っているんだと思う。なかなか厳しいが、10年間の長いスパンで、中学校卒業の時には、進路が選べるように。

○久美浜中学校の様子、取組

3年生地域ボランティア、自分たちで地域の区長さんなどに、「何かお手伝いすることないですか」と聞いて、「何月何日ここに来るように」と言ってもらって、地域の担当の方と活動をお世話になった。ありがたいなあと思っている。地区でやっておられることはまちまちで、神社の掃除、盆前で公民館の障子はり、サロンの手伝いなど。地域が強い久美浜ならではの取組だと思う。こういうかわりが久美浜に帰ってくるんだと思っている。昔は中学生のことは全て学校の責任と思っていた。悪いことせんようにとパトロールも行ってた。今は、地域の人「はよ帰れよ」などと言ってもらっていて、パトロールをしない行事もある。中学生が行っても受け止めてもらえるような地域を作ってもらっている。

○かぶと山こども園の様子、取組

春から、子どもたちのやってみたいことができるような活動をしている。いろいろな経験ができるよう工夫している。花や野菜の種を植えたり、芋差しをさせてもらったり、いろいろな体験活動をしたり。

今年の夏は熱中症アラートで、戸外活動やプールが中止になることが多くあった。園内の遊びを工夫した。

5歳児がお店屋さんを開いた。久美浜学園の先生に公開し見に来てもらった。先生たちと子どもたちが意欲的に対話していた。店の中で分担したり工夫したりしていた。幼児期にいろんな活動することが、学習の土台になっていくということを改めて思った。

地域との連携では、読み聞かせに来ていただいたり、5歳児交流会でかぶと山公園に行ったりした。地域のよいところを子どもたちが感じて学んで地域への愛着を持ってほしい。今年は熊騒動で、山遊びができなかった。お散歩などで地域へ出ることもできなかった。

地域の方にあいさつ運動をお世話になった。

○中学校地域ボランティアについて

・チラシを作って配るのも、区長さんのところへ持って行く流れをつくったほうがよい。
⇒子どものいない（少ない）地区もあるので、できるだけ近くの生徒でグループを組んでやっている。やり始めて、かれこれ4～5年になるが、2年目ぐらいに「地域に丸投げか」と怒られたところもあった。最近は、「今年も来るのか」と、肯定的に声をかけてもらえるところも出てきた。継続していくことで活動が根付いていく。

協議会副会長閉会挨拶

○学園副代表校長

・協議会参加ありがとうございました。各校区のグループ協議、いろいろと話を聞かせていただくことができました。

・学校を見てみると、地域の方で支えていただいているところがたくさんありまして、そういう話を聞かせてもらうということはありがたいことだと思っています。

・学校は子どもたちに学力をつけることを中心にしていますが、一方でこの学園は、久美浜を愛する心を育てようということも1つの目標として進めています。

・では、子どもたちに久美浜の良さをどんなふうに分からせるかと思った時に、子どもたちが、山や川やコウノトリを見て「すごいな。素敵だな」と思うかということ、なかなかそういう思いは持ちにくいと思います。しかし、コウノトリに関わっておられる方が、コウノトリをどうやって自分たちが守ってきたかとか、育つ環境にするためにどんな苦労があったかということを熱く語っていただいた時に、子どもたちも、「コウノトリってすごいんだ。じゃあ、私たちも調べてみよう」という気持ちになったりします。この緑とかを守るために一生懸命活動されている方の話を聞いた時に大切なものだ気づいて、自分たちも気をつけなくてはならないという気持ちになったりします。そういうことを子どもたちに気づかせていただいたりするのは、学校もそうですが、今こうして集まってくださっている各団体の方々の言葉だったりします。地域のことを知るということは、地域の方々に触れて言葉をいただくということだと思うので、今後も一緒に学習したり、子どもが出ていったりすることがあると思いますが、そんな時はぜひ子どもたちに熱く語りかけていただけたらと思います。本日はありがとうございました。

○副協議会長

・今日は遅くまでご苦労様でした。

・今後とも子どもたちにとって学校が楽しいところになるように、地域や各団体が一緒になって、学校と連携しながら、そういう場を作り上げ頑張っていけたらと思います。皆さん、また活動の方、よろしくお願いします。